

昭和四年三月十五日（第三種郵便物認可）
令和七年七月五日（印刷納行本）
令和七年七月五日

（毎月一回五日発行）

第九十八卷

第七号

第二一五八号

吉田苞竹創刊



令和七年（2025年）

七月号



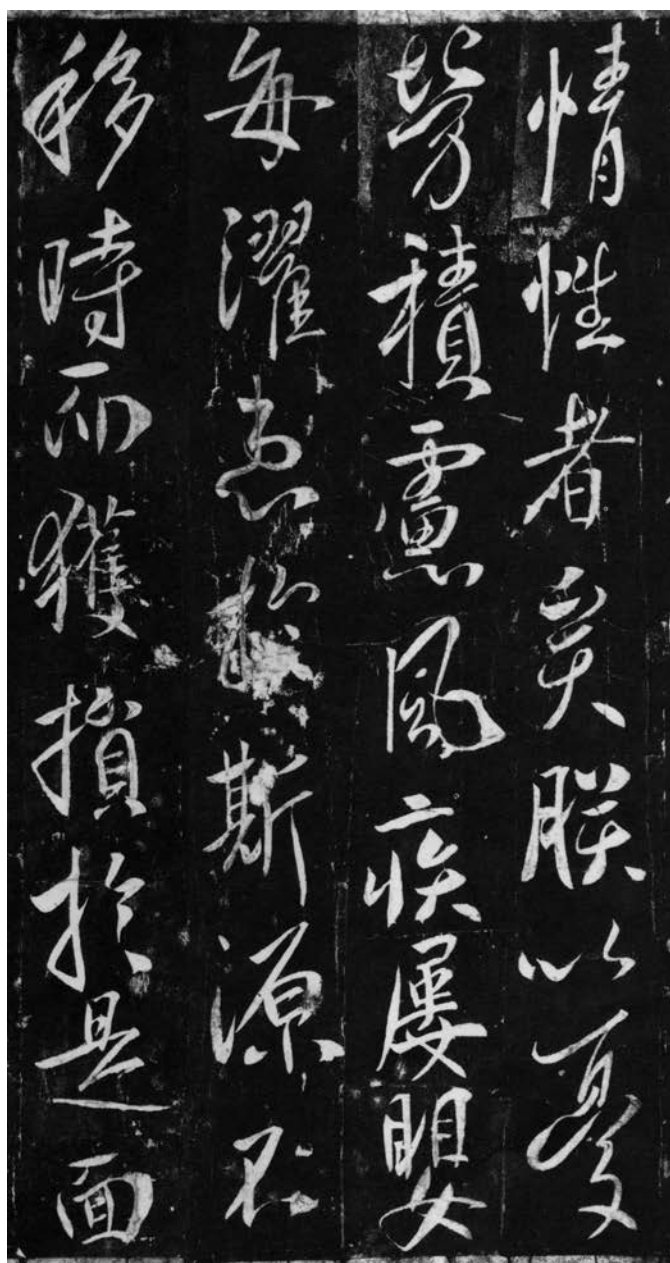
公益財団法人
書壇院

公益財団法人書壇院は、書道の研究、教育及び普及に関する事業を行い、書道芸術の高揚と精神の修養、人格の陶冶を図ることを目的としています。

古典研究

温泉銘 — 唐 太宗 —

(中国法書選 36
P.56 — P.57)



情性者矣。朕以憂

勞積慮。風疾屢嬰。

每濯患於斯源。不

移時而獲損。於是面

(漢字臨書規定 8頁)

課題

半切 Ⅱ 朕以より斯源まで (十六字)
半紙 Ⅱ 不移時而獲損 (六字)



感じる心

ながさわ ゆうこう
長澤 幽 篁

令和六年、愛知県豊田市に豊田市博物館が開館し、本年四月より開館一周年記念「岸田吟香と岸田劉生―近代、それは東洋にあり―」と題し大規模な展示が行われています。(六月十五日まで) 画家・岸田劉生の父吟香は、実業家・ジャーナリストとして知られていますが、詩・書・画、特に書に精通し本格的な中国風の書作を行っていたそうです。

今展に書壇院収蔵品十五点(潘存臨鄭文公碑、楊峴、日下部鳴鶴等軸作品、拓本など)を貸し出しています。内覧会に出席し拝見しました。とても見応えのある展示でした。

博物館は挙母城跡の高台に位置し、隣には豊田市美術館があります。昨年美術館を眼にしその建築に感動したのを覚えています。今回訪れるに当たり調べてみました。美術館は一九九五年開館で、設計は建築家で文化功労者でもある谷口吉生(一九三七―二〇二四)、美術館の設計を得意とし、豊田市美術館は彼の最高傑作の一つと呼ばれているそうです。

庭園も著名なアメリカの造園作家によるもので、その全体が心躍る美術品だと感じます。

私は日頃書展に足を運ぶよう心がけていますが、他分野から刺激を受けることも大切であり、佳い作品を書くには美的感覚が必要です。腕を磨くことは基本ですが、さらに感性を研ぎ澄まし生気溢れる作品を書きたいと思っています。

令和七年 書壇 七月号 目次

表紙Ⅱ書壇院蔵 鄭道昭書 東堪石室銘

題字 集鄭道昭書

古典研究

巻頭言……………長澤 幽 篁……………表 2

同人参考手本……………平岡 玲 篁・本多 岱 山……………2

雨 篁・蒼 林・穂 之・栄 香
中 井 言 玉・松 下 蕙 苑

競書課題

漢字規定……………水 野 澄 篁……………5

かな規定……………福 谷 玲 子……………6

南画規定……………大 久 保 楓 紅……………7

漢字臨書規定……………桑 山 戯 魚・大 竹 香 楓……………8

かな臨書規定……………星 野 静 代・渡 部 裕 子……………9

日本文……………菊 田 竹 子・平 井 侗 子……………10

篆刻入門……………益 満 丁 壺……………11

第64回竹心展作品……………12

玄位・妙位・雪位試験規定……………28

第十七回書壇院日本文の書展……………31

愛知・静岡地区書道交流会……………34

第一五三回審査会員遊苑……………34

第二一五八回選書

写真・批評……………35

成績発表……………48

お知らせ……………30

八月五日締切課題予告……………63

書壇院日記……………64

バーコード券申込書……………66

応募規定・競書出品方法……………67

第九十二回書壇院展半切部公募要項……………表 3

古典逍遙……………高 橋 彩 綏……………表 4

平岡玲篁書

細雨桃花水輕鷗逆浪飛風
頭阻歸棹坐睡倚蓑衣

平岡玲篁

細雨桃花水。輕鷗逆浪飛。風頭阻歸棹。坐睡倚蓑衣。

— 翰墨自在 —

— 韓偓詩 —

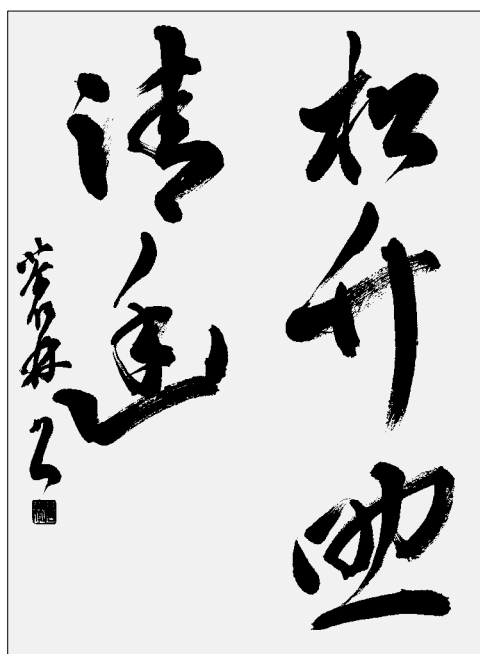
本多岱山書

寂寂春已暮。寥寥獨閉門。參天藤竹暗。沒階藥草繁。鉢囊長挂壁。香爐更無烟。蕭灑物外境。終宵啼杜鵑。

— 良寛詩 —

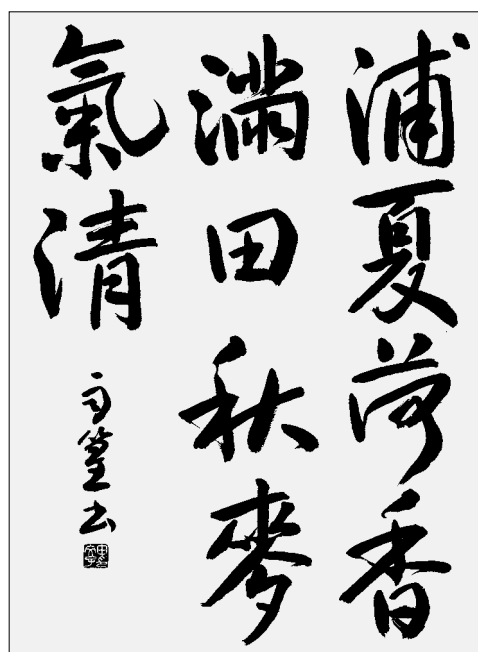
寂寂春已暮。寥寥獨閉門。參天藤竹暗。沒階藥草繁。鉢囊長挂壁。香爐更無烟。蕭灑物外境。終宵啼杜鵑。

— 良寛詩集 —



松竹助清幽

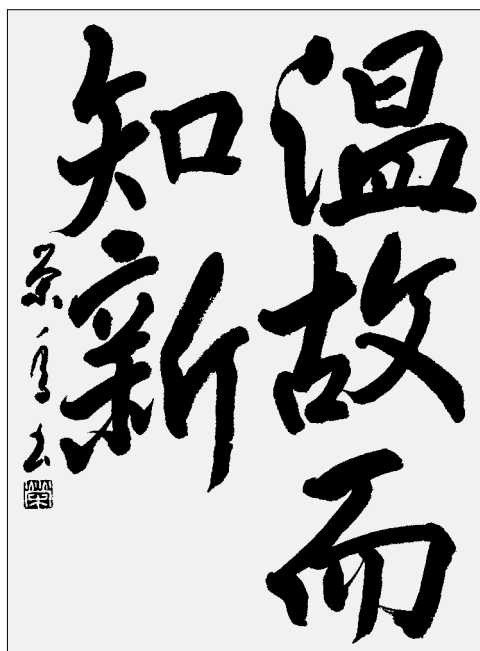
植木蒼林書



浦夏荷香満田秋麥氣清

駱賓王句

町田雨篁書



温故而知新

論語

若松榮香書



池養右軍

孟浩然句

松井毬之書

同人参考手本

2尺×6尺額用

中井言玉書

澹中得趣彌真
濃慶回頭味短

澹中得^レ趣^ヲ彌^ヨ真。濃處回^{ラセバ}頭^ヲ味短^{ナリ}

(新註 墨場必携)

用紙 紅星牌
筆 和筆・中鋒大号

—屠隆句—

松下蕙苑書

清風入梧竹

清風入^ル梧^ノ竹^ニ

(明解墨場必携)

用紙 中国画仙
筆 和筆・中鋒

—楊師道句—

七月五日締切（楷書）

漢字規定

半紙縦書

上位・準上位課題

歸分漢主憂

奉和聖製暮春送
朝集使歸郡應制

王維

聖製暮春に朝集使が
郡に歸るを送るを奉
和す應制
王維

萬國仰宗周

萬國宗周を仰ぎ

衣冠拜冕旒

衣冠冕旒を拜す

玉乘迎大客

玉乘大客を迎へ

金節送諸侯

金節諸侯を送る

祖席傾三省

祖席三省を傾け

褰帷向九州

褰帷九州に向ふ

楊花飛上路

楊花上路に飛び

槐色蔭通溝

槐色通溝に蔭す

來預鈞天樂

來つて鈞天の樂に預り

歸分漢主憂

歸つて漢主の憂を分つ

宸章類河漢

宸章河漢に類し

垂象滿中州

垂象中州に滿つ

玄位／六位課題

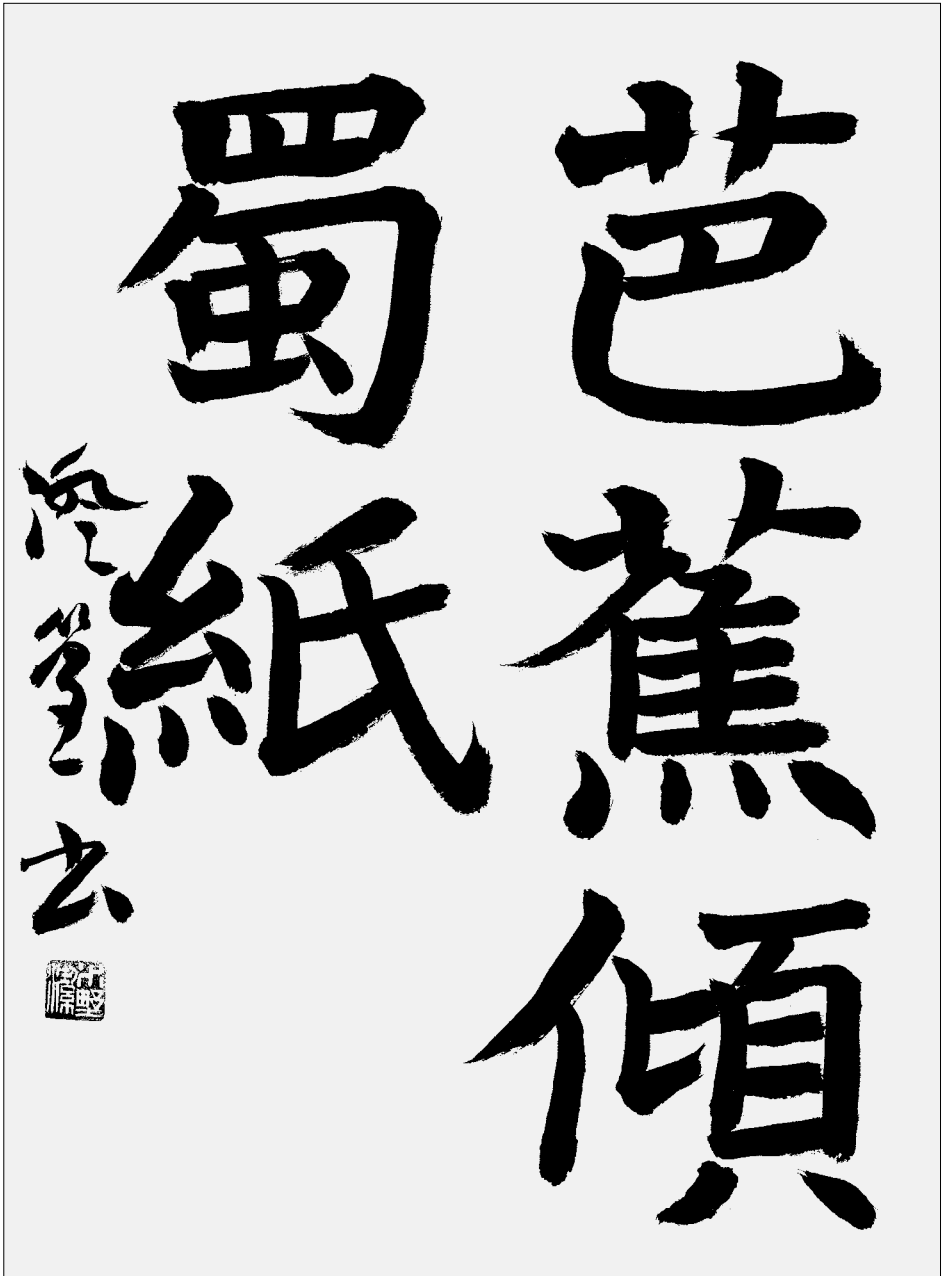
芭蕉傾蜀紙

——李賀——

（芭蕉蜀紙を傾く。）

芭蕉の葉は蜀の紙を傾けたように垂れ下がる。

参考手本 玄位／六位 水野澄篁書



芭——巴が大きくなり過ぎないようにするとよい。

蕉——サ、隹、艹のバランスに注意する。

傾——横幅が広くならないようにする。

蜀——中心が通るように書く。

紙——糸偏と氏の位置関係に気をつける。

次号課題（予告） 63頁参照

七月五日締切

かな規定

半紙縦書

極位・準極位課題

おのづから 涼しくもある
か 夏衣^{なつころも} 日も夕暮^{ゆふぐれ}の 雨
のなごりに

(藤原清輔)

妙位ゝ6位課題

今朝咲^さきし くちなし^{運奈能}の又
白きこと

(星野立子)

次号課題(予告)

63頁参照

参考手本

妙位ゝ6位 福谷玲子書

※かな漢字相互の変換、ちらし自由。落款は○○かく+印。

今朝

くちなしの又

白きこと

玲子

余白に重きをおいてみましょう。



七月五日締切

南画規定

※横三五センチ、縦二七センチ(小画仙紙半切五分の二)の用紙を横に揮毫のこと。

南画初学講座(一四八)

大久保 楓紅
おおくぼ ふうこう

本講座は、これまで書壇誌に掲載された大久保楓紅先生(一九一九〜二〇〇二)の作品を参考手本として転載しています。

今月は薔薇を課題にしました。

種類も多く、夏の季節となっていますが、今では四季咲きの薔薇もありますので一年中世界中で観賞されています。ここでは普通の薔薇を描きます。

先ず淡墨で花の線がきをします。次に筆に胡粉を含ませて、其の先に洋紅を少しつけて彩色します。

次に茎、葉も雌黄(黄)、藍、墨の順で大きさをわけて濃淡もつけ全体まとり良く描くよう、注意が必要です。

最後に墨で葉脈、洋紅に墨をまぜてとげをつけてください。
讚は「庭前清趣」です。

七月五日締切

漢字臨書規定

小画仙紙半切・半紙縦書

参考資料表紙内側

温泉銘おんせんめい—唐とう太宗たいそう—



桑山戯魚くわやまぎぎよ

スの東洋学者ポール・ペリオ（一八七八—一九四五）によつて敦煌石窟から拓本が発見されました。現在は、パリのフランス国立図書館にあります。

温泉銘は貞観二十二年（六四八）正月、太宗皇帝が臨潼県驪山にある温泉に持病の中風を癒すべく訪れ、その効能を賞で、建碑し、自ら筆を揮つて碑に刻させたものです。

太宗（五九八—六四九）は、唐王朝の基礎を築いた英明な君主で、文化の保護と育成にも力を尽くしました。自らも書を愛好し、王義之に心酔してその書を学び、特に行書を得意としました。

原碑は、既に失われ、一九〇八年、フラン

温泉銘は、私の大好きな古典の一つで大学二年の時に全紙二枚つぎ三連幅で太鼓を叩くようなイメージで臨書したことを思い出しま

桑山戯魚臨 半切参考手本（上位／六位）

朕以夏多坊積慮風疾
屢明女每濯志於斯源

初稿

す。実画の確かさと虚画部分での悠々とした大きな動き、弾力のある細身の線を駆使した結体は縦長、背勢気味の前傾姿勢のものが多く、今にも動き出しそうです。そして最大の魅力は、躊躇なく筆を進めているところではないでしょうか。皇帝になった気分でおおらかに誇り高く堂々と臨書してください。かくいう私は、皇帝になりきれませんでした。

大竹香楓臨 半紙参考手本（上位／六位）

不移時
而獲損

大竹香楓

次号課題（予告）

64頁参照

七月五日締切

かな臨書規定 伊予切 ―七― 半紙縦半切

極位ゝ2位

左を半紙縦半切に臨書すること

(二玄社 日本名筆選26)



万
まつかげの いはるのみづを むすびつ、 なつなきとしと おもひけるかな

『伊予切』と同様『高野切第三種』の書風系列に属する古筆には、『御物粘葉本和漢朗詠集』『法輪寺切』『蓬萊切』『近衛本和漢朗詠集』『元暦校本万葉集』があります。課題の歌は、清水の冷たさを強調し、今年は夏がない年であったかと思ってしまうことだ、と詠んだ恵慶法師の歌。二行の響き合いのさり気なさや墨の濃淡美が光る一首です。一行め、程良い墨量で字幅に細・太と変化をつけて書き進め、二句めの「は」は筆力を高めてしつかりと。二行めの渴筆はゆっくり丁寧に書きます。緩やかさと鋭さを兼ね備えた本古筆の書の美を習得すべく、努力したいものです。

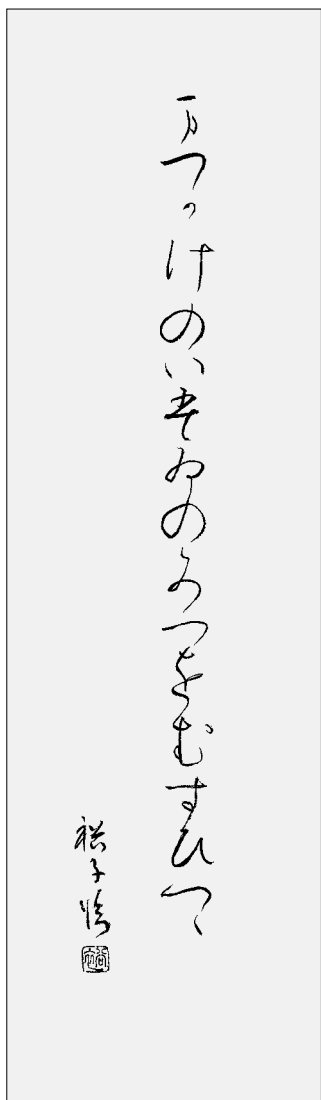
(星野静代)

3位ゝ6位参考手本 渡部裕子 臨

3位ゝ6位

半紙縦半切に臨書すること

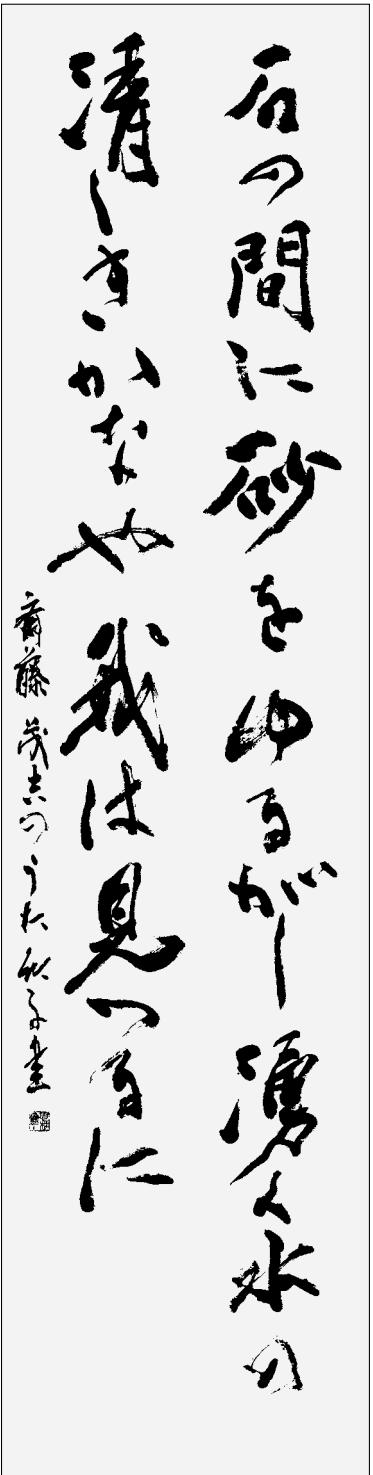
万
まつかげの いはるのみづを
むすびつ、



次号課題
(予告)
64頁参照

7月5日締切 日本文

①条幅規定 半切タテ 参考手本 菊田竹子書



石の間に 砂をゆるがし 湧く水の 清しきかなや 我は見つるに

(斎藤茂吉)

線の動きをできるだけ抑え、単体で茂吉の歌意を込めて書きました。



②半紙規定 ヨコ

参考手本

平井侗子書

すすしや 袖にさし入る 海の

月 (三浦栲良)

③半紙随意 書体・文言自由。半紙タテ

次号課題
(予告)
63頁参照

篆刻入門

(二六八)

益満丁ます みつ たい あん盒

七月五日締切課題

○規定「返璞歸真」

○随意（または篆刻を含む）

○印は3cm以内、篆刻は原印大とします。

○67・68頁応募規定をご覧ください。

※出品票を貼ったバーコード券を必ず貼付してください。

規定参考 益満丁盒作



《応募作品アドバイス》

今月の課題は「一字師」でした。一と字が疎画なので二対一とすれば置きやすい印文であると思います。

規定

○流芳さん、安定した作風です。師の自を下げたのは効果的です。辺縁の処理も素晴らしいです。

○蘭陽さん、線がきびきびしており響きがあります。ただ全ての文字に変化を付けているため、変化による効果が薄まっています。変化を見せる

には、変化させない部分が必要ですよ。

○春果さん、文字と厚めの下辺に空間を取り、字配りのバランス感覚が冴えています。

○閑雅さん、余白を活かした良い作品です。印風も長閑でゆったりとした雰囲気があります。

随意

篆刻課題は「自度航」でした。今までの篆刻課題は漢印だけでしたが、これからは近人の印も採用しようと思います。

○賢さん、浙派の風をよく捉えた篆刻です。この線で頑張っ

てください。

○水心さん、呉讓之「震無咎齋」の篆刻作品です。篆刻の再現度が非常に高く、刀法のお知らせ聞こえてきます。

参考になさった本が恐らく大陸の出版物で、釈文が簡体字になっておりますが、こちらで正体に変換いたしますので問題ございません。余談ですが、无は説文に無（霧）の奇字（珍奇な文字）とされ、現在の大陸ではこの形を簡体字として採用していますが、仮に作品に釈文を入れる場合は「無」とした方が宜しいかと思います。

堀 流芳



柴 蘭陽



菊地 春果



鈴木 閑雅



小林 賢



摹刻参考



左馬廐將

鈴木 水心



八月五日締切規定予告

「清風一榻」

返璞歸真（璞に返りて真に帰す）一切の虚飾を廃し、本来の姿に立ち返ること。『戦国策』より